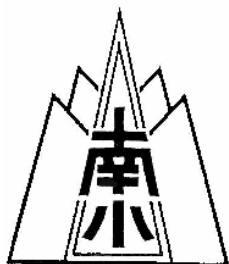


下大和田町は千葉市緑区土気町の北端に位置し、印旛沼に注ぐ鹿島川の流域にあたります。また、小山町は土気町の南端に位置し東京湾に向かう村田川の原流域となっています。土気南小の校章は、その土地がらを表していることを知り、校章の由来を教頭先生にご寄稿願いました。(編集部)

土気南小の校章から

末永昇一(千葉市立土気南小学校 教頭)



左が本校の校章です。校長室には、この校章の由来が次のように掲げられています。

『海拔 96 メートルに及ぶ土気の地は、鹿島川・村田川などがここに源を発し、房総半島中央部の分水嶺となっている。』

本校が所在する土気地区の南、土気町・大椎町周辺は、内陸部にありながら、すでに古墳時代から栄え、前方後円墳舟塚を中心とする古墳群がある。大化の改新による国郡制では、上総国山辺郡に属し、王朝時代には、大椎廃寺や小食土廃寺が建立された。

そして、王朝時代の末期には、大椎城が築城され、長元の乱(1024年)の平忠常は、大椎城を拠点として、上総・安房・下総を制圧したという。子孫は後に千葉氏として栄えたので、大椎城は千葉氏発祥の地となっている。

現在の土気周辺は緑豊かな山が多く、中でも山武杉の名で呼ばれている杉の木立は、伸び行く子どもの姿を象徴している。本校の校章は、全体の線で土気の「土」の字を表すと共に、山辺郡の山、九十九里平野から屹立する土気の地形、更に歴史的に由緒ある大椎城の土塁をも意味している。

そして中央に南の字を配して学校の位置を示し、これを囲む鋭い三角形をもって、子どもたちが杉の如くたくましく健やかに成長することを念じている。』

歴史と伝統があり、みごとな山武杉が生い茂って緑豊かな土気の地。改めて校章の由来を読んでみると、この土気の地のすばらしさがわかります。そして子どもたちが、この校章が象徴するようにすばらしい環境の中で、すすすくどこまでも伸びてほしいと思います。

谷津田いきもの図鑑 No.2 「ニホンアカガエル」

はじめて見ると赤ガエルじゃなくて茶ガエルでは?と思うかもしれませんが(実際英語名は Japanese Brown Frog)、カエルをひっくり返して下腹部から太もものあたりを見るとその赤さに納得するでしょう。アカガエルの大きな特徴は真冬に産卵すること。下大和田では2月の初旬から産卵がはじまり、中旬頃ピークを迎えます(今年は半月ほど早いようですが)、冬型の天気が緩んで小雨が降るような夜、冬眠から一時的に目ざめたカエルが谷津田に集まり、たくさんのオスがクククッと小さな鳴き声を出してメスをめぐる静かな争いを繰り広げま



す。小山町周辺では例年半月ほど遅れます。卵塊は1000~2000個の卵のかたまりです。産卵を終えた親は再び冬眠に入り、次に姿を見るようになる5月半ばごろにはオタマジャクシから成長した子ガエルが蛙に上陸をはじめます。真冬の産卵は天敵が少ない早春のうちにオタマジャクシ時代を終えてしまうという戦略だそうです。カエルになると田んぼを離れ周辺の草むらで過ごします。谷津を囲む林の中にも移動するそうですがなかなか姿を見ることはありません。

近年アカガエルの数が減少しているのは乾田化が進み、冬産卵できる下大和田のような湿田がなくなっているためです。不思議なことに同じ水たまりでも休耕田やあし原だとほとんど産卵が見られません。谷津田がほんとうに好きなカエルですね。千葉県および千葉市最重要保護生物、体長4~6cmオスの方が大きい。(高山邦明)





里山たんけんレポート

第 84 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

2007 年 1 月 7 日(日)晴れ

晴れましたが、強風が吹き荒れました。

今日は都市鳥研究の越川重治先生の案内でバードウォッチングを中心に谷津を観察しました。越川先生から下大和田の谷津には多様な環境があり、千葉のこのような環境にいる野鳥は殆どここで見られるというお話を聞き、期待して歩き始めました。

ところが、谷津にハンターが入っていたせいか、あるいは強風のためか鳥は鳴かず、飛ばずでわずか 8 種を観察したにすぎませんでした。でもモズ、アオジ、カシラダカなどをスコープで引き付けて観察することが出来ました。

越川先生より鳥による食べ物の違い、鳥が好む環境がどんなものであるかなどをお話していただきながら観察しました。

一巡後は、同時開催のどんど焼きや昔の遊びを楽しみ、一日を楽しく過ごしました。

(昼食後、任意の観察では観察会時以外の 10 種を観察しました。)

(参加者 大人 15 名、小人 8 名; 報告: 網代春男)

第 68 回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

2007 年 1 月 7 日(日)晴れ

今年最初の YPP として恒例のどんど焼きと昔あそびをしました。

前日の大雨がうそのように空は晴れ渡り今年も YPP は天気に恵まれそうな予感です。

今回は定例の自然観察会と同時開催で、最初にみんなで谷津を散策しました。ガイドはいつもの網代さんに加え、野鳥の専門家の越川先生にお願いし、谷津の環境のこと、冬鳥のことをいろいろ解説していただきました。強風が吹き荒れていたせいか、いつもよりも鳥の数が少ない感じでしたが、それでもアオジやモズなどかわいい小鳥たちを観察することができました。



残り火でマシュマロ焼き

広場に戻って次はどんど焼きです。風が強いのでいつもより火は小さめにし、かかしも一番小さなかかしだけを真ん中に据えました。点火はいつものように火おし競争です。子どもたちが火起こし器に悪戦苦闘。最初は、「まいぎり」をうまく回すことができません。だんだん慣れてうまく回転するようになり、煙が出始めると歓声が上がります。モクモク煙がでるようになったら火種のできあがり。これをガマの穂綿に移してあとはひたすら息を吹きかけます。火種が大きくなると「すごい、すごい、すごい！」の声、不運にも火種が消えるとため息が聞かれます。今回はいつになく火種からなかなか炎にならず苦戦。最後は大人 4 人がかりで酸欠になりながら大きくなった火種に息を吹きかけ続けやつのことで炎があがりまし

た。みんなから大歓声と拍

手がわき起こり、無事どんど焼きへの点火ができました。

この瞬間に今年も良い年になりそう！と感じました。

みんなで育てたコシヒカリを羽釜で炊き、暖かい汁、ダッチオーブンでパンを焼いたり、たき火で芋やかぼちゃを焼いたり、盛りだくさんの食べ物をたき火の周りでもいただきました。昼過ぎから急に日が陰って風が一段と強くなり、震え上がるような寒さとなりましたが、コマ回しやけん玉、お手玉、弓矢など子どもと大人と一緒に元気がいっぱい遊びました。



(参加者 大人 22 名、幼児 2 人、小中学生 11 人; 報告:)

小山町で初めて収穫した古代米のもちつきだというのに、週間予報ではずっと雨マーク。もちつきは無理かと気をもんでいたところ、前前日には晴れマークとなり、臼を運んだりアズキを炊いたりと準備にも精ができました。

当日は、もちつきに関心を持ってくださった方がたくさん集まり、真冬の谷津はあつという間にぎやかになりました。もち米が蒸しあがるまでの1時間、細川先生とあざみ谷津の観察会。各地でニホンアカガエルの産卵が確認されていることから、田んぼの中をじっと目をこらし見ましたが、小山町ではまだのようでした。子どもたちは谷津を足早に進み、奥のコナラの木のジャングルジムで早速、木登りを始めていました。躊躇していた初参加の子どももいつの間にか上まで登っていました。



もち米が蒸しあがると、順番に子どもたちが重たい杵でべったんべったんついてくれました。アンコやきなこその他、大根おろし、納豆、のりなどにかからめて、子どもたちはあつという間に3升のもちをたいらげてしまいました。自分たちでついたもちの味は格別のようでした。もちつきの後はこま回ししたり、丸太棒のシーソーで遊んだり子どもたちは大満足で帰っていきました。(予想を上回る参加者のため、大人の方にはほとんど食べていただけず、申し訳ありませんでした。)

(参加者 大人23名、小・中学生28人、幼児11人; 報告: 松下恵美子)

谷津田・季節のたより

下大和田

1月 2日 (火) 10羽ほどのウソの群れを目撃(田中)。

1月 4日 (木) オオタカ、ハシブトガラスにモビングされるノスリを観察(田中)。

1月16日 (火) ウソを目撃。アカガエルの卵塊はまだない(網代)。

1月21日 (日) アカガエルの卵塊を今季はじめて確認。
17日ごろ産卵したものと推測される(田中・高山)。斜面林でアカゲラを目撃(高山)。

1月27日 (土) あちこちの田んぼにたくさんのアカガエルの卵塊を確認。抱接している親の姿も見られた(網代・田中)。

1月27日 (土) 28日 (日) 夜の谷津田にたくさんのアカガエルの親が出現し、抱接、産卵する様子を観察。メスをめぐる争い(1/27 下大和田にて 田中正彦)
クククッという鳴き声も(網代・田中・高山)。



2月 1日(木) アカガエルの卵塊数をカウント。みんなの田んぼに130個、大塚さんの田んぼに151個、花澤さんの田んぼに236個(網代)。

小山町

1月 3日 (水) あざみ谷入口の高木にノスリが止まっていた(湯本)。

1月 3日 (水) 4日 (木) 斜面林にアカゲラの姿を見る。小山では初認(高山)。

1月10日 (水) 地元の方の畑でフキの芽を確認。例年より2~3週間早いとのこと(齊藤)。

1月26日 (金) あざみ谷からノスリが飛んでいく姿を見る(松下)。

1月28日 (水) タチツボスミレが開花。ノスリの姿を見る(細川)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

第 69 回 下大和田 YPP「林でクラフト&大工仕事」

谷津田に面した林で、物置の整理や活動の看板作成、木の名札づくり、プランコの補修など、様々な大工仕事をしたり、ネーチャークラフトをしたりして真冬の日を楽しみます。念願のツリーハウスづくりにもいよいよ取りかかります！小さなお子さんでもどなたでもできる作業がたくさんありますので、皆さんでお出かけ下さい。また、アカガエルの産卵の季節ですので、恒例の田んぼの卵塊数調査も行います。

日 時: 2006年 2月18日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 弁当、飲み物、敷物、長靴、軍手など。

参加費: 300 円(保険・資料代など)

主 催: ちば環境情報センター(ホームページ <http://www.ceic.info/>)

共 催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

第 19 回 小山町自然観察会

小山町でもアカガエルの卵が確認できることです。卵塊数調査や冬鳥を探しながら散策しましょう。

日 時: 2007年 2月25日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(当日、小山町集会所前に案内を出します)

持ち物: 長靴、軍手、筆記用具など

参加費: 100 円(保険・資料代など)

第 86 回 下大和田 3 月の谷津田観察会とごみ拾い

春を探しながら散策です。ウグイスは囀り始め、アカガエルのオタマジャクシも見られる頃です。

日 時: 2006年 3月4日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場 所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集 合: 中野操車場バス停に 10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300 円(保険・資料代など)

主 催: ちば・谷津田フォーラム

共 催: ちば環境情報センター

編集後記

*この冬はじめて夜の谷津田でアカガエルの産卵シーンをみて感激しました。暖冬のこの冬は記録的に早くアカガエルが産卵し、下大和田では1月中旬に産卵がほとんど終わってしまったようです。気候の変化に確実に反応する生き物の様子を見るにつけ、人間が地球環境に大きな影響を与えていることに危惧と罪の意識を感じます。身近な自然の変化に気づく目を養うこと、自然を記録し続けることが地球環境を考えることにつながっていきます。まさに“Think globally, act locally”(地球規模で考え、足元から行動しよう！)ですね。(高山)

*昨年、収穫した古代米をもちつきしてみなさんに食べていただき喜んでもらえたこと、本当によかったです。収穫量はわずかでしたが、その何十倍もの楽しみを体験できました。これを機に多くの方に田起こし、田植え、稲刈りに参加していただき、地元の方との交流などを通し、谷津田を皆で守っていけたらと思います。(松下)